

## 日本・フィンランド修交 90 周年記念～会員交流パーティー

日時：平成 21 年 12 月 20 日(日) 11:00～13:30

場所：福山ニューキャッスルホテル「セラヴィ」

2009 年、日本とフィンランドが外交関係を開設して 90 周年を迎えました。これを機会に、今年は「フィンランドの歴史」をテーマに、フィンランド流スタイルで会員交流パーティーを開催しました。

はじめに山田アリヤ先生よりフィンランドの独立記念日の過ごし方についてお話をいただきました。

『独立記念日には、フィンランド国旗の色でもある青と白の 2 色のロウソクを 2 本立てて、独立を祝います。また戦没者のお墓参りをしたり、テレビ中継される大統領官邸での晩餐会を見て過ごします。』(一部抜粋)

その後、喜多流大島能楽堂の大島衣恵さんより「北欧能公演」の報告をしていただきました。(下記概要)

今年は、交流パーティーをフィンランド流の立食形式で行いました。フィンランド料理(独立記念日などで食べられるブルーベリーを使った国旗のケーキなど)をいただきながら、会員の渡部光子さんのピアノと本庄直子さんのニューフォニウムの演奏で、参加者全員でクリスマスソングを歌うなど、楽しく和やかな雰囲気の中で交流を深めました。



山田アリヤ先生

参加者の皆さん

フィンランド国旗のケーキ

## 「初夏の北欧能公演」

喜多流大島能楽堂 大島衣恵

2009 年 5 月、能楽公演のため新緑の美しいヘルシンキを訪れました。

広島県福山市の喜多流大島能楽堂を拠点に活動する能楽師の父・大島政允を団長に、各地から集合した出演者やスタッフ総勢 21 名。フィンランドと日本との国交 90 周年を記念したヘルシンキ・アジアフェスティバルへ招待頂き、続いてストックホルムで公演を行う北欧ツアーです。

ヘルシンキの会場はアレキサンドラ劇場。ロシア時代に建てられたオペラハウスで、こじんまりとした中に趣のある、ヨーロッパらしい佇まいの劇場です。

劇場へ入って先ず、堂々たる鏡板の松の絵が目飛び込んできました。日本の能舞台からそのまま持ってきたような立派な老松の絵に、一同感嘆の声が上がります。海外だけでなく国内でも、能舞台以外の場所で演じる際には鏡板をいかに設置するかが課題となりますが、能舞台の象徴ともいえる老松を、実物を知らないはずの劇場スタッフが写真を頼りに見事なまでに描いてくれたのでした。鏡板の松だけでなく柱や欄干まで、可能な限り本物の能舞台に近い空間を作ろうと懸命に立ち働く劇場スタッフの姿勢に、心底頭の下がる思いが致しました。

公演のプログラム構成の打ち合わせの際にも、フィンランドの人々の本物志向の姿勢を垣間見る出来事がありました。動きが少なく象徴的な表現を主体とする能は、とかく分かりにくいと言われがちです。



アレキサンドラ能舞台

アレキサンドラ客席

出来るだけ飽きないように楽しんでもらおうと見どころを凝縮し、動きのない場面を省略した形の上演を予定していました。しかし、そのことを知った舞台責任者は大変立腹し、プログラムの修正を求めてきたのです。「我々が観たいのは、日本で演じられているのと同じ本格的な能だ。簡略版を望んではない。」と。能に対する安易な理解を求めていた自分達を反省した出来事でした。

また、観客の舞台に対する姿勢にも目を見張るものがありました。開演前までは賑やかな話し声の絶えなかった客席が、開演の合図と同時に水を打ったように静かな空間となったのです。中には子供達の姿もありましたが、皆食い入るように舞台を見つめているのです。その静けさは客席の集中力が全て舞台へ注がれていることを感じさせる、密度の高いものでした。舞台上の演者も客席からの集中力を肌で感じて緊張感も増し、一体感のある引き締まった舞台を務めることが出来たと思います。



### スオメリナ島エロマー氏

今回の公演中通訳を務めて頂いたのは、ストックホルム大学教授で日本文学研究家のエロマー氏です。氏は私たち日本人も驚くほど正しい日本語を話され、大変気さくで親切に通訳を務めてくださいました。また能の詞章を翻訳し会場では字幕スーパーを流す、ということまで手がけて頂きました。フィンランド人の知人によれば、その字幕が素晴らしい詩的で美しいフィンランド語に訳されていたので、一層能への理解が深まり大きな感動を覚えたということです。

また氏は茶道裏千家のヘルシンキ支部長でもあり、氏のご案内で世界遺産スオメリナ島の茶室を訪れる機会を頂きました。要塞の中にある茶室と聞いて不思議に思いながら訪れましたが、日本から選ばれた畳や襖とフィンランドの木材の柱や石の壁が見事に調和した、趣きのある一室でした。美しく折り目正しいお点前で一服のお茶を頂戴し、思いがけず和やかなひと時を過ごさせていただきました。



### スオメリナ茶室

フィンランドは「北欧の日本」とも呼ばれているようですが、それどころか日本人がお手本にしたいほどに日本文化の本質を捉えて実践されている方々が多い国だと感じています。フィンランドの人々が憧れを持って、真摯に学ばれている日本文化。伝統文化に携わる一人として嬉しく有難い事と思う一方で、今の日本は彼らの目にどう映っているのだろうかという思いが頭をよぎりました。



### 能 羽衣

公演の最終日、「天鼓」という古の中国を舞台にした能を上演しました。天才音楽少年「天鼓」は皇帝の命に背いたために湖に沈められ殺されてしまいますが、そのことを悔いた皇帝の弔いによって天鼓の亡霊が現れ、弔いに感謝して舞を舞うという筋の曲です。この能を観たある女性から、忘れがたいメッセージを頂きました。「天鼓を観て最も心に残ったのは、殺された少年が皇帝を憎むことなく許しているということ。今人類にとって、許し合うことが最も必要で、能がそのことを遥か昔から訴えて続けていることに感動した。」



### 能 天鼓

北欧の人々の深い思慮と本質を捉える感性の豊かさに驚くと共に、能をはじめ日本の伝統文化には世界の人々に通じる力があるのだという思いを強くした北欧能公演の旅となりました。



### 学生ワークショップ



### フィンランド本田前大使夫妻と(中央)